

■全国各地で

国鉄改革に奮闘！

今、真国労の仲間たちは国鉄改革の道をまっしぐらに突き進んでいます。上野・御徒町分会の仲間は話題になっていくMOTTOトレインのキャンペーンを、北海道でバイクを連ねて行っています。小山客貨車区の仲間は、デイズニールランドへの初めての団体募集をバス二台で大成功させました。全国各地でオレンジカードや記念乗車券販売、物産店、団体募集など様々な企画を進めています。直営店の仲間たちも増収増売に積極的に取り組んでいます。

■組合員未加入は

国鉄改革に非協力と同じ

国労組合員でも真面目に仕事をして増収に積極的に取り組んでいる人もいます。しかし、国鉄改革を積極的に妨害している国労に所属していたのでは、努力が全くむだになってしまいます。

たとえ、国労から脱退しても組合未加入のままでは国鉄改革に非協力的な態度といわざるをえません。

国鉄の赤字は、日々ふえつづけています。それだけではなく、小荷物や貨物と同じく旅客部門も高速バス・自家用車・飛行機との競争が激しくなっておりシェアや輸送量の減少に直面しているのです。

一人一人が仕事を真面目にやることは絶対に必要なことですが、それは改善であって改革ではありません。

個人が努力するだけでは国鉄改革は不可能です。

みんなでチエを出し合い協力して努力していかなければならぬのです。だから真国労なのです。だから私達は労使共同宣言を締結し、必死に努力しているのです。

読売7/22朝刊

国労の中堅幹部が脱退

国労中央本部客貨車協議会の田中勇議長(五二)は、二十一日、国労を脱退して真国労に加入したことを明らかにした。国労本部中堅幹部の脱退は初めてで、雇用不安が広がる国労組織に大きな影響を与えそうだ。

田中氏は記者会見で、①国労が当局とともに発足させた

■ぐんぐんのびてます！

全国各地で国労脱退・真国労加入が続々と続いています。3名で結成していまや200名に迫ろうとしている新幹線博多総合車両支部や、結成数週間で100名を突破した尾久客車区分会の奮闘。施設・電気・自動車・工場、青函連絡船にも「まこと」は誕生しています。

東京駅でも運転主任が中心になって分会が結成されました。高崎・熊本では局の課員の仲間も地本役員をになっています。

国労全国大会を前にした7月21日にはついに国労本部役員員の田中勇氏が国労脱退・真国労加入を表明しました。腐りきった国労指導部に見切りをつけた勇氣ある行動に全国から共感と称賛の声がわき起こっています。全国の仲間たちもいまずぐ続こう！

労使懇談会が凍結され、組合員に不安が広がっている。本部は当局との雇用安定協約などの締結を最重点に取り組むべきなのに、何ら展望を示していない。ことなどを理由に脱退を決意した、と述べた。

田中氏が所属する東京・尾久客車区分会の国労組合員百二人も、先月から十九日までの間に国労を脱退して真国労に加入している。田中氏らの加入によって、真国労の組合員数は千九百人となった。

真国労中央本部

東京都千代田区丸の内1-8-1

旧東鉄庁舎内

TEL 公衆 03(201)0525

鉄道 057 3716、3717

国鉄改革労働組合協議会結成される！

ひろがる国鉄改革の輪

真国労への加入にあたって

前国労中央本部客貨車協議会議長

田中 勇（尾久客車区）

今般、国労中央本部客貨車協議会の議長を辞任するとともに、国労を脱退し真国労に加入することとしました。

わたしの所属する尾久客車区分会は、国労結成以来三十数年間にわたって国労の伝統をまもり数々の歴史的闘いを展開してきました。そして、これまで上部機関にも多くの役員を選出してきました。わたし自身も国労中央本部の役員として、国鉄問題が重要な段階にはいつているなかで組合員の雇用と運転職場を守るために精一杯活動してきたところです。しかし、国鉄問題が重大な局面に入ればはいるほど国労本部の活動は硬直し展望なきものになってしまいました。しかも、今春、国労尾久客車区分会の執行部が大きく変わり、国労の方針さえも無視した取り組みがすすめられてきました。

このような中で、組合員の多くは、国労の本部や分会の方針と指導に不安をもち、反発を強めてきました。わたし自身も、このままでは組合員の雇用はまもれない、運転職場も残せなくなる、国労の良き伝統も破壊されてしまう、と毎日悩みながら打開の道を模索してきました。

とりわけ、「D CのE C化」以来の合理化に伴う労働不安にどのように対処したらいいのか、運転保安の確立と各種事故防止をはかるためにはどうするべきか、そして、なによりも雇用安定協約をめぐる組合員の不安と悩みにもどのように応え、若い人たちの将来をどのようにしたらよいか、悩み苦しんできたところでした。こうして、このひとつの方策として、尾久客車区とここに働く労働者の将来を考える意見交換の場をもうけました。

ところが、国労分会執行部や国労上野支部の一部役員および国労東京客貨車協議会は、事実をねじまげ「分裂行動だ」「真国労づくりだ」騒ぎたて誹ぼうし中傷してきました。わたしを首謀者にしたてあげたのです。

しかも、こともあろうに、苦楽をともにしてきた国労本部客貨車協議会の一部役員までもが非難してきました。これまでは「一人の首切りも許さない」などといいつつ、今度は「おまえを国鉄から追放してやる」と口汚く罵ってきました。

組合員の雇用不安を解決するために組合があり、この先頭にたつのが役員であったはずですが。にもかかわらず、国労という組織にあぐらをかき、組合員の気持ちに何ら応えようとしなない役員たちに憤りを感じました。このままでは、わたし自身が国労本部客貨車協議会の議長として組合員のために働くことに限界を感じました。国労の役員として存在すること自体が組合員に申し訳ないことであると考えました。このまま国労の役員でいることは、長年にわたって組合活動家として働いてきたわたし自身の正義感からしても許されるものではないと考えました。

こうして、国労本部客貨車協議会の議長を辞任しました。国労を脱退して、これまで長年寝食をともにしてきた尾久客車区の真国労の仲間たちと歩むことにしました。

全国の運転職場に働く皆さん。国労に所属しているすべての皆さん。

わたしたち真国労は、雇用の安定などの成果にたって新しい事業体の発展にむけた取り組みをすすめています。

真国労に加入し、ともに組合員と家族の利益をまもり、鉄道事業の発展を切り拓きましよう。

昭和六十一年七月二十一日

1986年8月取得

国労を脱退し真国労に加入した、元国労中央本部客貨車協議会議長田中勇氏より、国労東京地本客貨車協議会議長であった池田皓氏（国労八王子客貨車区分会所属）に事業用便（国鉄内の配達システム）で送られてきたもの。コピーさせてもらったのか、本紙を譲り受けたのか不詳。3枚ホッチキス止め。